



JPFA

Japan Powerchair Football Association

一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会

日電協 第21016号

2021年12月01日

JPFA47 都道府県電動車椅子サッカー協会/関係各位

一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会

会 長 吉野 忠則

(公印省略)

「パワーチェアフットボールにおける車体のベース部分の長さ」について (最 新)

日頃から、日本電動車椅子サッカー協会の活動にご協力いただき感謝いたします。

2021年10月31日付、公文書第21015号におきまして、「パワーチェアフットボールにおける車体のベース部分の長さ」についてお知らせを配布しましたが、その後関係各位から多くの質問をいただき、「車体のベース部分の長さ」の解釈について、再度 FIPFA 担当者と詳細な確認が必要な状況となっております。先日 FIPFA 担当者から正式な回答が JPFA へ届きましたので改めて皆さんへお知らせを配布させていただきます。

1 : 「テクニカルサプリメント 2020」の電動車椅子車体のベース部分に関する規定（11～12 ページ）で 50.974 インチ（129.4 cm）と表記されているものはストライクフォースの標準的な寸法であり、大会で許容されるのは **55.120 インチ（140 cm）** との事です。この長さを超える事は認められないと言う事ですので、過去に JPFA で配信しました公文書第 18001 号、第 18032 号、第 21011 号、第 21015 号（車体のベース部分最大 145 cm）を訂正し、車体のベース部分の**最大長は 55.120 インチ（140 cm）**へ統一させていただきます。**パワーフル 6 の車体に関しましてもこの規定を適応させていただきます。**

2 : リアガードからハンドグリップやヘッドレストが飛び出ている構造は、上部の空間であっても認められないと言う事ですので修正をお願いします。（壁を背にした時、リアガードが先に壁へ触れる構造でなければいけません。）テクニカルサプリメントでは 1.388 インチ（3.5 cm）内側とされていますが、リアガード内であれば許容されます。ただし国際大会においてはエキップメントチェックで修正を求められる可能性があります。

3 : **フロントガード・サイドガードの角がとがっている構造はそのまま使用していても問題ありません。**突起物という物は相手の電動車椅子や選手へ損傷を与える危険性があるものを指しています。（後方の手押しハンドグリップはこの範疇に入りますので、上記 2 の様にリアガード内に収めるようにして下さい。）

以上、よろしくお願いいたします。